軍需のまちだった枚方市

かつて枚方は、爆弾や砲弾を製造・保管する施設が3つもある「軍需のまち」でした。「軍需」とは、爆弾や砲弾など軍事上、必要とされる物資のことです。中宮・片鉾・甲斐田地区にあった枚方製造所は、忙しい時には約3万人が昼夜2交代制で働き、大阪市内や伏見（京都）・米子（鳥取）にも工場をもつ、日本最大の砲弾製造所でした。作られた爆弾や砲弾は主に鉄道で運ばれ、まちを破壊したり、人を殺したりすることに使われました。

集団疎開

（市史資料室提供）

1944（昭和19）年、空襲から逃れるため、大阪市の大宮国民学校の児童635人※が引率教員や寮母とともに、津田・交野・星田の3町村に集団疎開してきました。子どもたちは親元を離れ、寂しい集団生活を送りました。※「学童集団疎開の生活ー引率教員の日記ー」より

調べてみよう！

どうして香里には軍需工場ができたのだろう？ヒントは地形。
爆発の危険がある火薬を扱うならどんな場所が向いているのかな？

ひこぼしくん

枚方と戦争の年表

1894年	（明治27年）	日清戦争が始まる
1897年	（明治30年）	禁野火薬庫が開設
1898年	（明治31年）	津田駅・長尾駅ができる 関西鉄道（JR学研都市線）が開通
1904年	（明治37年）	日露戦争が始まる
1909年	（明治42年）	禁野火薬庫が爆発
1910年	（明治43年）	牧野・樟葉の各駅ができる 香里（現在の香里園）・枚方（枚方公園）・枚方東口（枚方市）・京阪電鉄が開通
1937年	（昭和12年）	日中戦争が始まる
1938年	（昭和13年）	枚方製造所が開設 国家総動員法が公布
1939年	（昭和14年）	香里製造所が開設 **禁野火薬庫が大爆発**
1941年	（昭和16年）	太平洋戦争が始まる
1944年	（昭和19年）	大阪市の大宮国民学校の児童が津田町に集団疎開
1945年	（昭和20年）	太平洋戦争が終結 広島・長崎に原子爆弾が投下
1947年	（昭和22年）	**枚方市が誕生** 日本国憲法が施行
1954年	（昭和29年）	被ばく 第五福竜丸がビキニ環礁で
1956年	（昭和31年）	団地が完成 禁野火薬庫跡に中宮第二
1958年	（昭和33年）	完成 香里製造所跡に香里団地が
1982年	（昭和57年）	都市を宣言 大阪府内で初めて非核平和
1989年	（平成元年）	「枚方市平和の日」を制定

軍需のまちから平和のまちへ

※枚方の出来事は青字で記載

禁野火薬庫

（市史資料室提供）

日清戦争後の軍備拡張の一環で、1897（明治30）年に禁野火薬庫が作られました。当時は淀川で船を使って物資を運ぶことが多かったことから、兵器工場のあった大阪と宇治の中間にあり、人があまり住んでいなかった禁野の場所が選ばれました。

枚方製造所

（市史資料室提供）

1937（昭和12）年に日中戦争が始まり、弾丸・信管を増産するため、禁野火薬庫の東隣に枚方製造所が作られました。1938（昭和13）年から生産を始め、主に大・中・小口径の各種砲弾、爆弾や信管を製造していました。

香里製造所

（市史資料室提供）

中国との戦争が激しくなった1939（昭和14）年にできました。主に湿った火薬を乾燥させて、砲弾や爆弾に詰めて完成品にする作業などを行っていました。

市民の平和運動が実った 香里団地

（市史資料室提供）

戦後、工場の一部は学校や病院として使われましたが、設備等は放置されていました。1950（昭和25）年、朝鮮戦争が始まると民間の火薬製造会社が香里製造所の払い下げを申請。禁野火薬庫大爆発の悲惨さを知っていた市民は大反対しました。1万人の署名を集めて国会や政府に陳情するなどした結果、火薬工場はつくらないことになり、香里製造所跡には、1958（昭和33）年、当時東洋一といわれた香里団地ができました。